

報告：第4回 みんなで語ろう！大学での子育て
コーディネイター：生駒夏美
国際基督教大学

今回で4回目となった恒例の座談会だが、今年は開催日が学期末となったこともあり、参加者が前回ほどには集まらなかった。そんな中、妊娠中や妊活中の教職員、他大学で女性教員のサポート役を請け負っておられる方、そして学生、大学院生の方々が参加してくださったのには勇気付けられた。ご参加くださった皆様に感謝したい。

長年のCGSでの活動の成果もあり、大学での託児の必要性については本学でも認識されるに至っている。ただ現在キャンパスにあって閉園が決まっている幼児園の施設をどのように利用できるのかについて、コンセンサスが得られていないため、具体的に事態が進捗しないという状況になっている。

私たちとしては、大学側がイニシアチブを持って事態の打開を図ってもらいたいと願うとともに、必要性について粘り強く訴えていきたいと考えている。

今回は、ネパールからの留学生が特に窮状を伝えてくれた。彼は配偶者も留学生であり、オンキャンパスの託児施設がないことや、学内の寮には子供を持つカップルの入居が許されていないこともあり、現在は母国の家族のもとに子供を残して留学生生活を送っている。しかし、子供と共に生活したいという気持ちは強く、わたしたちの活動に希望を見出したという。託児施設をめぐる状況が膠着していることを伝えざるを得ないことが、非常に心苦しかった。

多くの大学教職員にとっては、託児所開設が実現するのが何年後であっても有難い嬉しいことだろうが、数年間しか本学に在籍しない学生にとっては、「いま必要」なのであって、数年後では意味がない。今後、留学生は増えることが予想され、そうすると今回のケースに類似したケースも増えていくだろう。オンキャンパスの託児施設はますます必要性が高まる。また、託児所のみではなく、学生寮にも家族で入居できるようにしていく必要がある。日本の大学には大学生を「結婚前の若者」と想定している傾向がある。国際性を打ち出しているにもかかわらず、本学もその例に漏れない。しかし世界に目を向ければ、大学に通うのが必ずしも20歳あたりの若者であるとは限らない。まして

や大学院となれば、**mature students**は当たり前の存在である。グローバルスタンダードと言うのであれば、学生に配偶者がいたり子供がいるというケースを特殊事例として考えるのではなく、普通のこととして扱えるように教職員側の想定も改める必要がある。また、大学設備もそのようなケースを想定して作られるべきである。本学では新たに寮が建設されるが、ぜひとも子供連れでも入居可能なものにしていただきたいと願う。また現在キャンパスにある研究者用宿泊施設にも、子供連れでの宿泊が認められていないが、これは外部から子育て中の研究者を招聘する際の障壁となっている。研究者にもシングルマザーやシングルファーザーがおり、必ずしも子供を置いて一人で本学に来られるとは限らない。独身者をモデルとしたこのような施設の運営方針を、ぜひとも見直していただきたい。

いままさに保活をしていて、保育園を確保することの難しさに直面しているある教職員もオンキャンパス託児施設が「いま必要」との声を届けてくれた。子育てをしながら勉強をしたり、仕事をしたりするには、安心して子供を預けられる環境があることが必須条件である。それが整わないために職場復帰やさらには子供を持つことそのものに不安を覚える人もいることを大学側は認識しなければならない。人生の大切な選択肢を、職場の環境のせいで狭めてしまうことのないように、大学側にはその切迫した状況を理解していただきたいし、早急な解決をお願いしたい。

保育が必要な時期は、その子供の人生の最初のほんの数年間である。しかしその時期を支える仕組みがないと、これからの社会では学生、大学院生、留学生、教員、職員にとって魅力的な学び舎・職場と成りえないのではないだろうか。

以下に、ネパールからの留学生 **Jiwak Raj Bajracharya** さんの文章をご本人の許可を得て掲載する。

I am so glad to know that CGS is aiming to gather its efforts for the establishment of a childcare facility at ICU.

Why do I need a childcare facility at ICU? Indeed, I have a 17 months old daughter who was born in Tokyo and remained with us (me and my wife) only for 6 months. Presently, I and my wife are doing PhD and would greatly appreciate an on-campus childcare facility. The reason behind this is I was not able to get a place at Hoikuen due to the shortage of Hoikuen in Mitaka city. Graduate students like me (including Japanese and non-Japanese students) are desperate to have a childcare facility on his / her own university so that they can manage time for both study and children. I know there are many private Hoikuen outside of Mitaka city but it is very difficult to arrange transportation and is time-consuming, too.

I am sure that, CGS will implement its planning into action in near future soon.

Additionally, ICU has very good apartments for couple within reasonable price range but children were not allows to live in them. Can CGS put its effort for this matter too?

Sincerely
Jiwak